

## 委員会等での意見の骨子イメージ(案)への反映状況等

行政経営のポイント	委員会での議論	議論を踏まえた大きな方向性	左に係る論点整理	委員会等での意見、庁内検討等
① 県の役割の明確化	<p>○行政経営を考えるとときには、無駄な業務・事務を減らす、効率化する視点とともに、県がやるべき業務であるかという視点も必要ではないか。</p> <p>○県の役割は、具体的に一個ずつ考えていくと膨大な時間が掛かるから、概念的に整理せざるを得ないのでは。</p>	<p>⇒中長期的なあるべき姿として、県の役割を概念的に整理し、県の実施する業務を明確にする。</p>	<p>⇒長期的な姿としての県の役割は、どのように整理したらよいか。</p> <p>⇒国や市町との連携(権限移譲を含む)はどのような視点で進めるか。</p>	<p>&lt;委員会、部会での意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政経営を考えるとときには、県がやるべき業務であるかという視点も必要ではないか。(第1回委員会)</li> <li>・県の役割を明確にすると、施策を具体的にどこまで実施するかが導き出される。(第2回委員会)</li> </ul> <p>&lt;検討結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁内で検討したところ、抽象的だが、「最も身近な基礎自治体が充実した県」、「県は基礎自治体を補完し、連携する」に現時点では意見を集約。</li> </ul> <p>&lt;骨子イメージ案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年に向けて目指すべき県庁の姿に反映(市町との適切な役割分担)</li> </ul>
② 効果的な事業への財源シフト	<p>○個々の業務や事務を効率化・改善していくことに加え、どういった事業にどの程度取り組むかという視点での管理にもバランスよく取り組んでいく必要がある。</p> <p>○業務の選択と集中について、やるべきことに資源を集中させることが大事である。無駄な仕事はなく、それをやめるといった判断は難しいが、大切である。</p>	<p>⇒限られた財源をより効果的な事業にシフトさせる取組が必要である。</p>	<p>⇒限られた財源の中で、より効果や効率の高い施策・事業へ展開するにはどうすればよいか。</p>	<p>&lt;委員会、部会での意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やるべきことに資源を集中させることが重要。(第1回委員会)</li> </ul> <p>&lt;検討結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁内で検討したところ、効果の高い施策・事業を立案するためには、まず、進取の精神が引き継がれてきた滋賀の県民ニーズを的確に把握する必要があると現時点では意見を集約。それを基に効果的でチャレンジングな施策等を立案する。</li> <li>・事業実施に当たっては、第4次産業革命の進展を踏まえて、AI等ICTを活用して、効率的に実施すべきと現時点では意見を集約。</li> </ul> <p>&lt;骨子イメージ案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年に向けて目指すべき県庁の姿に反映(進取の精神、第4次産業革命)</li> </ul>
③ 多様な主体の参画	<p>○事業の必要性や効果等をしっかり説明し、説明責任を果たしていくことも行政経営の大切なポイントで、県民の理解や協力を得ないと、施策・事業は効率的に進まないのではないか。</p> <p>○アウトソーシングはどんどんやっていかなければならないと思うが、そのコストをしっかりと把握しないとわからない。</p>	<p>⇒県民等の多様な主体の理解や活動参画、民間等のノウハウの活用を促す取組が必要である。</p>	<p>⇒県民等の理解や協力、参画・行動の促進は、どのように進めるか。</p> <p>⇒民間活力の活用は、どのような取組を進めるか。</p>	<p>&lt;委員会、部会での意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトソーシングはどんどんやっていかなければならないと思うがそのコストをしっかりと把握しないとわからないのではないか。(第2回委員会)</li> <li>・NPOなどの非営利の民間団体との連携や協働も明確に位置づけるべきだろう。(第1回部会)</li> </ul> <p>&lt;検討結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁内で検討したところ、この部分は、非常に重要で、「県庁は大きく変わろうとしている」ということを強くアピールすることが必要で、そのために、「透明性」、「参加」、「協働」の三原則を持つオープンガバナンスの考えを採用すると現時点では意見を集約。</li> </ul> <p>&lt;骨子イメージ案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・策定の趣旨にオープンガバナンスについて言及。2030年に向けて目指すべき県庁の姿に反映(透明性と参加の機会、協働マインド)</li> </ul>
④ 行政経営のスリム化・効率化	<p>○業務の効率化は個人の意識で対応するアプローチでは難しくなっているのではないか。業務を分析し、無駄な業務を抽出するなどしないと変わらない。</p> <p>○毎年度100億円の収支不足を改善しようとする、今持っている施設などを持たなくするといった、思い切った提案も必要かもしれない。</p> <p>○県の出資法人のマネジメント向上について、中長期的にしっかりと取り組んでみては。</p>	<p>⇒県民ニーズの実態を踏まえ、事務の簡素化等により、行政運営や行政サービスの提供を効率化する取組が必要である。</p>	<p>⇒行政経営のスリム化のために、どのような取組を進めていくか。</p> <p>⇒行政経営の効率化のために、どのような取組を進めていくか。</p>	<p>&lt;委員会、部会での意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の出資法人のマネジメント向上について、中長期的にしっかりと取り組んでみては。(第2回委員会)</li> <li>・地方機関だけでなく、本庁の組織体制についても検討の余地があるのではないか。(第1回部会)</li> </ul> <p>&lt;検討結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁内で検討したところ、抽象的だが、「市町との適切な役割分担の下、広域自治体の機能を強化すること」で現時点では意見を集約。</li> </ul> <p>&lt;骨子イメージ案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組項目に、「本庁・地方機関」、「出資法人」について記載。</li> </ul>
⑤ 組織力・職員力の向上	<p>○組織の縦の連携をとり、横の連携をとれば、仕事の構造や目的、理念が分かり、効率化が図れるのではないか。</p> <p>○目標管理は、トップが定めた目標を庁内の全員に展開することであるが、これをしっかりとすると、上下の連携が取りやすくなり、トップマネジメントが楽になるのではないか。</p> <p>○経営を考えたときに、職員が働きやすく、働き甲斐があることが一番の基本ではないか。</p> <p>○質の高い行政サービスの提供のために、職員の心身の健康管理推進については、高い目標を持ってはどうか。</p>	<p>⇒業務の担い手である組織・職員が、能力を発揮できるような取組が必要である。</p>	<p>⇒組織マネジメントの強化や職員の人材育成にあたっては、どのようなことに留意するか。</p> <p>⇒職員の健康管理や多様な働き方の推進にあたっては、どのようなことに留意するか。</p>	<p>&lt;委員会、部会での意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営を考えたときに、職員が働きやすく、働き甲斐があることが一番の基本ではないか。(第1回委員会)</li> <li>・職員にとって大きな問題であるストレスに対する対応や、健康経営を実質化していく取組を考えていく必要がある。(第1回部会)</li> </ul> <p>&lt;検討結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁内で検討し、5月に平成30年度の取組をまとめた「健康経営計画」を策定した。31年度以降は、次期行政経営方針に取り込んでいく。</li> </ul> <p>&lt;骨子イメージ案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年に向けて目指すべき県庁の姿に反映(健康的な組織風土、職員が能力向上に努める)</li> </ul>

今後の部会での議論

◎第2回部会（6月6日開催）において特にご議論いただきたい内容

- ① 県の役割の明確化 : 骨子イメージ案で示した「2030年に向けて目指すべき県庁の姿(市町との適切な役割分担)」など
- ② 効果的な事業への財源シフト : 骨子イメージ案で示した「2030年に向けて目指すべき県庁の姿(進取の精神、第4次産業革命)」など
- ③ 多様な主体の参画 : 骨子イメージ案で示した「策定の趣旨」および「2030年に向けて目指すべき県庁の姿(透明性と参加の機会、協働マインド)」など
- ④ 行政経営のスリム化・効率化 : 骨子イメージ案で示した「2030年に向けて目指すべき県庁の姿(市町との適切な役割分担)」など
- ⑤ 組織力・職員力の向上 : 骨子イメージ案で示した「2030年に向けて目指すべき県庁の姿(健康的な組織風土、職員が能力向上に努める)」など

◎第3回部会（6月20日開催）において特にご議論いただきたい内容

- 第2回部会での意見等の反映状況
- 具体的な取組項目、取組方針 : (例) 効果的な事業への財源シフトを促す手法 ……的確なニーズの把握方法、EBPM推進の具体像  
民間活力活用手法…アウトソーシング、PPP/PFI

行政経営のポイント	委員会での議論	議論を踏まえた大きな方向性	左に係る論点整理	委員会等での意見、庁内検討等
⑥ 財政基盤の確立	<p>○行革債は、全部県で償還していくということになるから、これありきではなく考える必要があるのではないかな。</p> <p>○基金を取り崩しや行革債の発行をいつまでも継続するのではなく、将来的には収支をゼロにもっていかなければならないのでは。</p> <p>○財源不足への対応は、これまでなかなか実効性をもってできなかったところをもう少しやり方を変えて進めていく必要があるのでは。</p> <p>○健康寿命は大切であり、これを延ばすことによって県の負担も減っていくのではないかな。</p> <p>○国体は、十分コストを意識しながら取り組んでいく必要があるのではないかな。</p> <p>○収入を得る動きがもう少しあったらよいのではないかな。</p>	<p>⇒持続可能な財政基盤の確立に向けて、歳出・歳入両面からの取組を進める必要がある。</p>	<p>⇒歳入の確保を図るため、どのような取組を進めていくべきか。</p> <p>⇒どういった視点で歳出の見直しを進めていくべきか。</p>	<p>&lt;委員会での意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財源不足への対応は、これまでなかなか実効性をもってできなかったところをもう少しやり方を変えて進めていくことが必要ではないか。(第1回委員会)</li> <li>・当面は、財源不足分を少しでも圧縮するための目標や取組を提案するものになるのではないか。(第2回委員会)</li> </ul> <p><b>&lt;留意事項&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の都合により、第1回部会でご議論いただけなかった論点。</li> <li>・第2回部会(6月6日開催)でご議論いただき、それを踏まえ、県庁内での検討を加速化させたい。</li> </ul>
⑦ 目標の管理等	<p>○行政経営における達成状況を的確に評価するために、どのような目標を設定すべきかについて、整理が必要であり、目標の設定を誤ると、大事なところが見落とされてしまうことになるのではないかな。</p> <p>○委員会として、目標を実現してくださいと県に言うだけでは無責任なので、どういう考え方で実現していくのかということまで示していかないと行かない。</p> <p>○目標は、努力目標では甘いのではないかな。</p> <p>○ハードルの高い目標を設定しなければならない中では、計画の進捗に対する見直しも考慮が必要ではないかな。</p> <p>○経営理念は、どういう滋賀にしたいか、滋賀ならではの夢の部分が入ってこない、皆さんに伝わらないのではないかな。</p>	<p>⇒行政経営における達成状況を的確に評価できる目標を、その方策や見直しの仕組みと併せて、適切に設定する必要がある。</p>	<p>⇒目標設定はどのようなことに留意して設定するか。</p> <p>⇒目標変更の仕組みはどのように考えるか。</p>	<p>(取組の方向性が、ある程度決まってから議論)</p>